

続ボラッチョ・ボニートのメキシコ便り(No.09)

「早起きする者を神が助ける？」

・・・サマータイムの季節がやってきた・・・

前の便りに書いた、ハカランダの花が盛んに散り始める頃、当地では1996年から、全国的に行なわれている、時計の針を1時間進める、いわゆる「サマータイム」が実施される。しかし、たかが一時間であるが、されど一時間である。時差ぼけがやっと解消されたかと思うと、この変更で、永年慣れ親しんだ、わが体内時計の生活リズムはまた狂い、2000メートルを超える高地と相まって、熟睡したという気分は殆ど無い。

私は、相変わらず夜型人間なので、常日頃夜遅くまで起きていることになり、結局朝早くなった分だけ苦痛は増加する。本来人間は日の出とともに起き、暗くなれば自然に眠るのが基本であり、それを無理やり時間を変えるのは、自然の摂理に反していると思うのだが。

今回の題名の元となったのは、「**A quien madruga, Dios le ayuda**」(ア キーエン マドゥルーガ ディオス レ アユダと発音し、直訳は、タイトルから疑問符をとったとおりだが、日本の諺でいうと、早起きは三文の得というところだろう)



おじいちゃん「ボラッチョや、おじいちゃんは早起きして、散歩したら道で3文拾ったよ。早起きすれば、時にはいいこともあるものだ。お前はいつも朝寝坊だから、いいことがあるように早く起きなさい」

ボラッチョ「おじいちゃん、そのお金の持主は、おじいちゃんよりも早く起きたために、3文無くしてしまったのだ、いいことなど無いじゃないか。おじいちゃんのうそつき！」

おじいちゃん「この、悪たれめ！・・・」(「ぼかん」と、ボラッチョの頭を殴る)・・・お後は良いようで

サマータイムの効果と、この制度を仕掛けた大人の独善？庶民の素直な感覚の、相互の矛盾点を皮肉ったつもりの、私がかつてに作った「**chiste**(小話)」である。私は上記のボラッチョに感情移入して、この制度は余り好きでないのは、分かっていただけだと思うが、各人は賛否両論色々な意見を持っているに違いない。

メキシコ連邦電力委員会(CFF)のホームページを見たところ、世界で86カ国もこの制度を採用しており、メキシコだけでも、2008年の電力節約量は、11億万キロワット時、その節電から計算される費用節約は、93億5000万ペソ(日本円換算約113億円)とのことである。

この結果のような比較対象の無い計算は、条件設定でどうにもなると、ISOを当地で教えている癖で、疑問を呈してしまうが、話半分としても信ずることにしよう。庶民レベルでは、別の文句の一つが出てしまう。

勤務時間は変更がないので、時計の針を1時間進めた結果、終業時間はまだ日が高い頃で、つい時間を忘れて事務室に残り、勤務時間だけは何となく自然に延びてしまう。

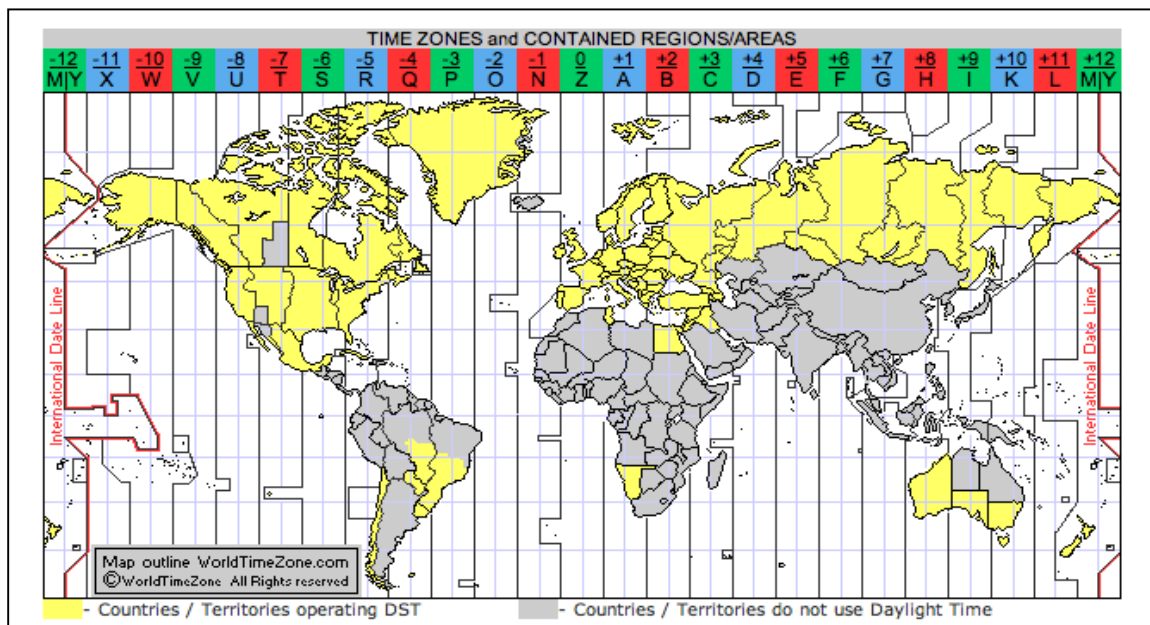
他人の管理下におかれた自分の時間ほど、浪費され、もったいないものはないなどと書くと、派遣元から、「お前は何を考えているのか」とお叱りを被りそうだが、

「うーむ、これだ。これに違いない。省エネ効果と称して、密かに勤務時間の延長を図ったのに相違ない。敵ながら上手い奇策を考えたものだ」と、敵は誰でもよいが、ボラッチョ・ボニート氏は、テキーラをちびりとなめながら、下司の勘ぐりとして思ったのである。

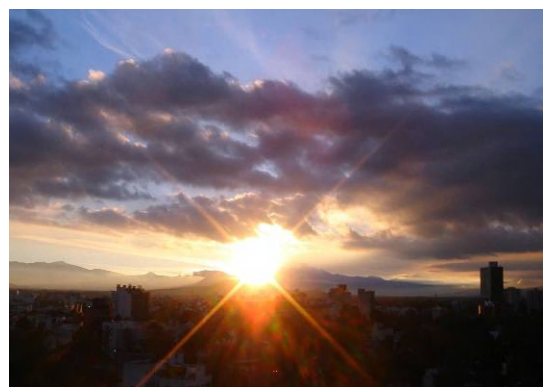
年寄りになり、早く目が覚めることが多くなった。眠い目をこすりながら、小鳥たちが元気にさえずり始めるのを聞き思うことは、タイトルに込められた言葉を信じつつ、サマータイムのあるなしに関わらず、自分で時間を少しでも管理出来る生活をしようと望むが、人生も残り少なくなってしまった。

これも不可能なことながら、金で時間が買い戻せたり、人生がリセット出来たならばなどと、さらに非現実なことを空想してしまう。

(来月の講義準備の為、時間との闘いになり、本日からの4日間連休の、セマナサンタ(聖週間)の休日も、自宅で資料づくりに追われそうです)(2009年4月09日)



黄色:サマータイム導入国、地域、 灰色:サマータイム未導入国、地域



メキシコのポポカテペトル火山(5492m)方面の夜明け・・・世の中全体にあまりよいことが無い中で、自然だけが悠久に進んでいく